

医師・看護師・介護職員の大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 63 号

2010 年 2 月 18 日

日本医労連増員闘争本部

TEL: 03-3875-5871

FAX: 03-3875-6270

岩手県医労連が県医師会長と懇談

会長「せめて5%UPは絶対必要だった」

(岩手県医労連 2010 春闘速報より)

診療報酬・医師不足対策など県医労連四役と意見交換

岩手医労連は 2010 春闘において、対経営者要請や政党・医師会などの関係団体への要請活動を計画していますが、2/15 には岩手県医師会長との懇談を実施しました。



2/15 の午後から県医師会館で行われた懇談には、県医師会からは石川育成会長、岩手医労連からは佐々木委員長他 3 名が出席しました。

石川会長とは 4 年振りの懇談でしたが、現在の地域医療・診療報酬問題に対して強い意見・批判を忌憚なく述べて頂きました。

鳩山政権の診療報酬決定の議論に対しては「私はこれまでの引き下げ分のせめて 5% アップが絶対必要だと言ってきた、今回の改訂では実質的にはゼロ回答だ」と批判しました。

また岩手県の医師不足については「医師確保にいい方法は無い、医師の絶対数が足りないが岩手がダントツだ。地域偏在もあり、4 号線沿や盛岡に集中し、全

国では東京に集中している。楽な方へ儲かる方へ流れる。教育の問題もある、医局意識もなくなっている、指導するいいリーダーが必要だ」と述べました。

医師の労働条件については「医師に労働基準法は成り立たない、患者のコンビニ受診は問題だ、女性医師が増えているが、出産後に復帰する状況が無い」等、発言されました。

県立病院を巡る問題については「県のやり方はソロバン勘定優先だ。私は県に意見を求められて、激変緩和が必要だと述べてきた。ゼロにするのではなく、ベッドの利用状況に合わせて入院を確保しながら地域の不安に配慮していく方法が必要だ。釜石や宮古などで地域から支える動きがあるが、そういうのがやりがいを生み、いい職場が作られる。医者は患者の感謝の言葉が励みになる。その点、久慈などは良いようだ。最近、小児科の希望者が増えている、捨てたもんじゃない」と述べました。

石川会長はその他にも「後期高齢者医療制度」や民主党の医療政策、盛岡市夜間救急診療所を作ったこと、研修医制度のあり方などについても考えを述べました。

いつでも要請に応じる

懇談の最後に岩手医労連から、ナースウェーブへのメッセージなど、今後も意見交換などを継続したいと申し出たところ「壇上に上がれと言われても無理だが、メッセージ等であればいつでも遠慮なくきてくれ、医療に対する思いは君たちと同じだ。」と応じました。

岩手医労連としても、今後も積極的に医師会・看護協会などと意見交換を重ねていく方針です。